

PHOENIX NEWS



KOGA
COMMUNITY
HOSPITAL
NEWS



vol.26

INDEX

- Front Line 救急科医師インタビュー
..... 病院祭
- Special Issue 院内情報
- Information 新規救急車を配備しました!
- Community Lounge KOGAクリニック来年開院
- Staff Introduction 薬剤科
- 温故地新 焼津神社大祭荒祭



社会医療法人 駿甲会
Community Hospital

甲賀病院

Front Line

救急科医師インタビュー

園井英輝

近藤夏樹



ERセンター救急科部長



救急科センター長

2023年1月に園井英輝医師が入職し「救急科」を設立しました。
同年4月に近藤夏樹医師が入職し現在2名体制となっています。
第一線で活躍する二人に話を伺いました。

——— 当院（静岡県焼津市）へ来られていかがですか？

近藤：僕は出身が新潟で、静岡にきて暖かいなーというのがひとつですね！あと、海鮮が好きなので、海が近いし嬉しいですね。焼津さかなセンターにもいきました。

園井：僕は出身が大阪なんですけど、以前は北海道に勤務していて。静岡は雪が降らないのでその時使っていたスタッドレスタイヤの処分をどうしようか今、悩めます・・・（苦笑）

——— 当院（静岡県焼津市）の患者さんを診て感じたことはありますか？

近藤：当院周辺の方は高齢者でも元気な方が多いですね。年齢と見た目がマッチしないというか、搬送されてきて、年齢がこんなに上なんだと思った方が本当に多い。
漁師町だからなのか、元気に働いている高齢者が多いからですかね。

園井：ここ焼津地域の皆さんは、コンビニ受診や、救急車の不適切な利用が少ないですね。入職前は「24時間365日」受診可能と掲げ、「病院救急車」の運用をしているので、面白い取り組みをしている病院だなと思った反面、いわゆるコンビニ受診や、救急車をタクシー代わりにするような不適切な利用者が多いんじゃないか・・・と心配していたけど、全くそんなことはなかったですね。この焼津地域の皆さん真面目・・・というか、だからこそ、病院救急車の運用が活かされていて、この地域に合ったいい方法だと思いましたね。

近藤：入職前は園井先生と同じ懸念を抱いていたんですけど、病院救急車や消防救急車の台数からみて、救急車の不適切な利用は少ない地域なのかなと思ってます。
入職して3か月が経つけど、僕も病院救急車の不適切受診というのは記憶にないですね。



——— 当院では専属の救急救命士が11名います。救急の体制についてはどのように感じていますか？

園井：救急救命士が1～2人いる病院に勤務した経験はあったんですけど、10名を超える病院はなかったですね。多いな！と思ったし、最初は戸惑いました。でもみんな本当に熱心で向上心もあって教えがいもある。
救急救命士は救急の“核”となる存在だと思っていて、夜間の救急体制を考えるととっても良いと思う。看護師も救急専属がいればなお心強いですね。



——— 先生方が入職され、当院の救急体制の基盤ができてきました。どのような考えで取り組まれていますか？

園井：近藤先生と二人で力を合わせて取り組んでいますが、僕は近藤先生と一緒に本当に良かったと感じています。
まず、専門分野（園井医師：外科系、近藤医師：内科系）が違うので、補いあえてお互いプラスになっているのと、いろんな考えの救急医がいる中で、近藤先生とは基本的な考え方が近いので、同じ方向を向いていけますね。
あとは、やっぱり救急の腕という面でも安心して任せられるので、お互いの分野を生かしながら仕事ができる。僕は本当にいい先生と巡り会えてよかったと思っています。

近藤：園井先生が1月から先行して入職して、救急科のペースとなる今のカタチを作ってくださったので、とてもありがたかった。専門分野がかぶらない部分もあるので、働きにくいといった感覚もなかった。最初は関西のクセが強い先生かな？と思ったけど、全くそんなこともなくて（笑）

園井：全国を転々としている間に、関西色はかなり薄まったかもしれませんが・・・まあ阪神タイガースのファンだけは続いていますけどね（笑）

近藤：実は入職前から園井先生とはWebで連絡を取り合っていて、僕も園井先生と連絡をとりたいと思っていたし、園井先生も同じ思いでいてくれて。事前に情報の共有と、どういう救急科にしていこうかと相談にのってくださって。

園井：僕一人がやりやすい救急のかたちをつくる気は初めからなく、近藤先生と一緒にやるのを前提とした救急の体制を築ければいいなと思って。連絡をとって話をしていく中で、近藤先生との考えが一緒だなと気付いて。だから僕のやりたい方向にもっていても問題ないと解って準備もできたし、同じ思いで救急科のかたちを作ることができてよかったと思っています。



当院への入職前からお互いによりよい救急科をつくっていこうとお話くださっていたことを知り、大変嬉しく思いました。
園井医師、近藤医師、今後もどうぞよろしくをお願いします。

—新型コロナに負けず— 4年ぶりの病院祭



『第12回 病院祭』を6月17日に開催しました。
4年ぶりの病院祭は天候に恵まれ、450名を超える
地域の皆さまにお越しいただきました。



オープニングセレモニーでは、当法人甲賀理事長による開会挨拶の後、焼津市長中野弘道様、衆議院議員井林辰憲様よりご祝辞を賜りました。「スペシャルコンサート」では、トロンボーン奏者の深澤真紀子様と、ピアニストの漆畑江里様より合計6曲（5曲+アンコール）を披露いただき、会場内に響く音色に皆さん感激されていました。続いて当法人学童所（いいとも）の子ども達による「キッズダンス」が行われ、会場の皆さんの手拍子と一体となって元気な踊りを披露してくれました。



開会の挨拶
甲賀美智子 理事長



左から深澤衆議院議員、井林衆議院議員、中野市長、やいちゃん、
甲賀理事長、岡崎部長、小栗部長



【スペシャルコンサート】
トロンボーン奏者の深澤真紀子様と
ピアノ奏者の漆畑江里様による演奏



【キッズダンス】当法人学童所いいともの子ども達によるキッズダンス



【薬剤科】

院内では、薬剤科による薬剤師体験（お菓子を錠剤に
みたてた薬作り&虫よけスプレー作り）、看護部による
看護師・お医者さんへの大変身コーナー、内視鏡センター
によるお医者さん体験、検査科による血管年齢調査、栄
養科による災害食のサンプリング、当院DMAT隊による
なりきり隊員撮影会、リハビリテーション科によるVR
カグラ体験などなど・・・様々な催しを行いました。



【看護部】



【内視鏡室】



【感染対策室】



【救急救命士科】



【広報室・総務課/Dr.紹介・当院の取り組み紹介】



【看護部】



【静岡DMAT】

また、焼津市公認マスコットキャラクターの「やいちゃん」の登場、キッチンカー・地元食材を活用した物品販売等の出店によって、活気に満ちた病院祭となりました！



【キッチンカー】

当院では引き続き地域に寄り添った医療サービスの提供とその情報発信を継続し、地域の皆さまとの交流を大切にしていきたいと思っています。

院内情報

1/ 甲賀院長が「全日本病院協会」常任理事に選任されました

当院甲賀啓介院長が、6月17日付で『公益社団法人全日本病院協会』の常任理事に選任されました。

全日本病院協会は四病協（全日本病院協会・日本病院会・日本精神科病院協会・日本医療法人協会）の一角で、日本全国約2,500病院が加入しています。

現役員は、会長1名、副会長5名、常任理事20名、理事29名、監事3名で構成されており、静岡県では甲賀院長が唯一の役員となっています。



公益社団法人 全日本病院協会



2/ 「安全運転管理推進事業所」に指定されました！

焼津警察署と焼津地区安全運転管理協会から、当院が焼津地区の令和5年度安全運転管理推進事業所に指定され、活動を開始しました。

また、6月24日には焼津地区安全運転管理協会が主催する静岡県「セーフティドライバークンテスト焼津地区大会」に警備設備課の職員3名が参加し、中塚清文さんが優勝しました。中塚さんは9月に開催される静岡県大会へ出場します。

今後も職員一同、より一層の交通安全意識の向上と、事故防止に努めてまいります。



焼津地区セーフティドライバークンテストで優勝した中塚清文さん

3/ 救急症例検討会の開催

令和5年5月31日、当院にて「第9回救急症例検討会」が開催され、院内外の医療関係者60名が出席しました。

今回は、救急科部長 園井英輝医師より「shock! ～見逃してませんか?」、脳神経外科 根元琢磨医師より「右内頸動脈閉塞に対して血栓回収術を行い完全再開通を得た一例」をテーマに症例発表がありました。また、入退院相談室 池田紘子副主任からは「介護保険制度と施設について～しくみや特徴～」をテーマに勉強会が行われました。



開会の挨拶をする
甲賀 美智子 理事長



症例発表をする園井医師

救急症例検討会 会場の様子



開会の挨拶をする
甲賀 啓介 院長

4/ 中国視察団によるMEDICAL FOOD CENTER Swift Turtle Co.見学会

令和5年6月9日、中国（武漢・南京）でセントラルキッチンを運営する、中国人スタッフ22名が、日本医療福祉セントラルキッチン協会の案内にて、当法人のMEDICAL FOOD CENTER Swift Turtle Co.へ見学に来られました。

中国では、医療機関における一般的な「病気治療のための療養食」の提供が無く、「病院給食」のニーズが高まりを見せています。

そこで、当法人が取り組む、日本国内でも導入事例が少ない、先進的な新調理システム「ニュークックチル」方式の紹介をしました。施設案内後は、コミュニティーケア大井川に移動し、サテライト施設の見学ならびに試食会を行いました。

視察団の皆様からは多くの質問をいただくなど、関心の高さが伺えました。当院が用いる新調理システムで作られる病院給食が中国の地で提供される日も近いかもしれません。



新規救急車を配備しました！

令和5年5月18日に当院では4台目となる新たな病院救急車を配備しました。

今回の救急車も消防の救急車と同レベルの機能を有しており、より地域の皆様に安心してご利用いただける救急車となっています。

また、災害時にはDMAT車〔大規模災害や他傷病者が発生した事故などの現場に、災害急性期（48時間以内）に活動できる機動性を持った医療チーム（DMAT）の災害活動を支援するための車〕として活用することも可能となっています。

地域の皆さまにより健康な生活を送っていただけるよう、またコミュニティ・ホスピタル甲賀病院を受診して良かったと言ってもらえるように、あらゆる努力を行っていきます。

当院の病院救急車は24時間365日ご利用が可能です。ご質問・ご相談だけでも対応しておりますので、急な体調不良等ありましたらいつでもご連絡ください。



甲賀病院救急搬送ダイヤル 090-2135-9990

講習会・救護所運営・出張講座などの活動を行っています

当院では地域の皆さんの「もしも・・・！」の時に備えて、各種講習会や救護所運営などの活動を行っています。

地域の運動会やスポーツ大会、各種施設や地域での集会などへ、当院の救急救命士や静岡DMAT隊員・看護師などが直接出向き、皆さんの健康と安全についての講座や救護所運営などのお手伝いをさせていただきます。

ご希望の方は是非当院にご相談ください。

※相談の際は、日時・開催場所・ご希望される活動内容などをお伝えください。

ご相談電話番号：054-628-5500（代表）

ご相談メールアドレス：webmaster@sunkohkai.or.jp



KOGAクリニック 来年1月開院

令和6年1月に「社会医療法人駿甲会 KOGAクリニック」を開院いたします。

人工透析室ならびに眼科を備え、夜間透析や送迎車についても検討しております。

地域の皆さんに寄り添った医療の提供ができるよう、さまざまな意見を参考に準備を進めてまいります。

開院までの今後の予定

令和5年12月 完成・引き渡し・内覧会

令和6年 1月 開院



建設中の様子（7月中旬）

社会医療法人 駿甲会
KOGAクリニック



【住所】〒425-0088 静岡県焼津市大覚寺二丁目10番10

豆知識 『240kcal』

リハビリテーション科

『240kcal』という数字に見覚えがある方はいらっしゃいますか？1か月で1kgの体脂肪を減らすためには約7000kcalを消費する必要があります。1日あたり『約240kcal』となり、これを消費するためには「食事を減らす＝食事制限」もしくは「カロリーを消費する＝運動」する必要があります。

運動する際のポイントなどを以下の表にまとめましたので、ご参考ください。

ポイント：効果	内容・注意点
①筋トレ：基礎代謝量の増加	頻度：週に2～3回 内容：スクワット等 10回×3セット ※例としてスクワットを挙げましたが、筋肉量が増えれば代謝量は増加します ※過度な筋トレは慢性疲労状態に繋がります
②有酸素運動：脂肪の分解	頻度・目安時間：週2日以上、1回30分から1時間 ※過度な有酸素運動（1時間以上）は筋肉量を減少させます ※短い時間でも継続すると効果はあります（1回10分を1日3回、週2日以上でも可）



筋トレ後は成長ホルモンが分泌されており、有酸素運動の効果が高いようです。ただ一番重要なのは「無理のない目標設定」と「無理なく継続できること」。毎日の節制も大事ですが、心と体の健康を大事にしたいですね。



Staff Introduction

薬 剤 科



萩原 佑哉

HAGIWARA YUYA

25歳

入 職 年 月：2022年4月
資格・免許：薬剤師



当院で働く感想

学生時代に当院にて実務実習を行わせていただき、その後新卒として入職しました。実習の時から感じていましたが、自身の関心のある領域において、薬剤師としての職能を発揮しながら活躍できる環境であると思います。自分自身は栄養療法の領域に興味があったため、それに応じて上司のフォローのもと、1年目の段階から栄養サポートチームの一員として経験させていただきました。また、診療科目の増加に伴い、幅広い領域の薬物療法に携わることができ、日常業務を通じてスキルアップを図ることが出来ると思います。プライベートに関しては、希望休に対して柔軟に対応していただけており、ライフワークバランスが充実している点も当院で働く魅力であると思います。



Q1 趣味は何ですか？

A1 釣り、囲碁、将棋

Q2 プライベートな時間は何をしていますか？

A2 上記趣味

Q3 今の職業に就いていなかったら何をしていたと思いますか？

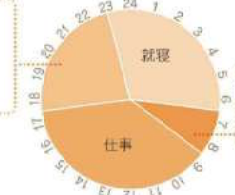
A3 研究者

Q4 将来の夢を教えてください。

A4 全国タイトル戦観戦ツアー

1日のスケジュール

18:30 帰宅
19:30 夕食
20:00 入浴
21:00 自由時間



6:30 起床
7:00 身支度
8:00 出勤



私たちと一緒に働きませんか？

当院では現在、薬剤師を募集しています。
詳細は右のQRコードを読み取りください。



薬剤師採用サイト

当院では他にも一緒に働く仲間を募集しています。

看護師／理学療法士／作業療法士／言語聴覚士／臨床検査技師／
臨床工学技士／診療放射線技師／視能訓練士／介護職／看護補助者／
社会福祉士／医療事務
お問合せは人事部 木嶋まで 054-628-5515



採用サイトTOP



「焼津神社大祭荒祭」

令和五年焼津神社大祭 四区櫻組中老 祭典委員長 大石弘道さん



「東海一の荒祭」と呼ばれ、毎年8月12・13日で開催される焼津神社大祭荒祭。今年は4年ぶりの全面開催が決まり、心待ちにしている市民も多いことでしょう。

今回、焼津神社大祭荒祭を運営する4町の内の組のひとつ、「四区櫻組中老 祭典委員長」大石弘道さんにお話を伺いました。

「焼津神社が出来たのは古墳時代で、1600年以上の歴史があるんだよ。昔の祭りは疫病厄除けといった意味合いが強かったけど、現在は大漁祈願や焼津の繁栄を願う意味合いが強いよね」

焼津神社の祭りは、当初は無病息災・疫病鎮護といった意味合いを含んでいました。漁業技術の発展とともに焼津市の漁業関係者の人口が増加、生活様式が変化していくなかで、大漁祈願や焼津の繁栄を願う意味合いが強くなり、江戸の元禄の頃に現在の「荒祭」の原型が出来上がったと言われています。

荒祭を象徴するのが2基の神輿。神輿は、屋根と胴体を繋ぐ棒が赤い網で縛られ、縛る時はガッチリと、解く時にはサッと解けるようになっており、焼津の漁師が船上で磨きあげるロープワークの技術が活かされています。

そして「アンエットン！」と言う独特の掛け声とともに、朝から夜遅くまで市内4ヶ所の御旅所を巡る神輿渡御。アンエットンを漢字で表すと「浦賀栄富」。浦は入江のことで、焼津神社はその昔「入江大明神」と呼ばれており、入江が栄え富むようにという「うらがえいとむ」が年月を経て、現在のアンエットンになったと言われています（※諸説あり）。怒号のように折り重なって飛び交うその祈り

の声と、荒祭を象徴する2基の神輿を数百人の白装束の集団が担ぎ、煽るその光景はまさに圧巻！！

「東海一荒い祭り」と思っている人が多いんじゃないかな？リーゼントをこよなく愛し、魚河岸シャツを着こなす弘道さんは笑いながら話します。

「荒祭の『荒』とは本来『純粹』や『素直』を表す言葉なんだよ。でも見ている人にはヤンチャな人が暴れているように見えるのかな（笑）」

荒祭という名の如く、荒々しくて威勢の良い祭りですが、荒祭の『荒』は、元々はまっさらな白装束で身も心も清らかにし、「純粹」「素朴」な気持ちで神様と向き合うという意味のようです。

「お祭りでどんな神様が祭られていて、どんな背景で行われているかを知って参加すると楽しさも増すんだけどね。この荒祭だって歴史があって、昔は男性のみの祭りだったんだよ」

従来、焼津神社大祭荒祭は男性だけの祭りとして開催しており、女性は慎重に裏方で支えていたのだそう。しかし約30年前から女性も参加できるようになったと言います。

「昔乙女だった諸先輩の皆さん、『できるなら私も祭りに参加したかった！』ってよく言ってるよ（笑）。それだけ荒祭は魅力的なんだよね」

一見強面の弘道さんですが、祭りに参加する地域の皆から親しまれ、頼りになる存在。4年ぶりの開催となる荒祭の準備や宣伝にも積極的に活動しています。今年の焼津の夏は例年以上にアツく盛り上がりそうです！



焼津神社HP
「荒祭について」



